

令和2年度第2回「健康食品」による健康被害事例専門委員会からの報告

1 開催日時等

令和3年1月19日（火曜日）午前10時から正午まで（オンライン開催）

事務局設置場所：健康安全研究センター6A 会議室

2 議事及び報告事項

(1) 議事：事例の検討について

令和2年6月1日から令和2年11月30日までの間に都医師会、都薬剤師会、都消費生活総合センターを通じて収集した14事例について検討を行った。

検討結果を踏まえ、3事例（肝障害、皮膚紅潮、下痢）について、都医師会、都薬剤師会に対して情報提供の協力を依頼した。

なお、4事例（咽頭違和感、血液検査異常値、倦怠感、消化器症状）は患者の体質、摂取状況等が不明であるため因果関係が不明であること、7事例（掻痒感3件、腹部痛2件、消化器症状、胃部不快感・月経不順）は類似製品の事例が殆どなく、よく知られた非重篤な事例であることや製品以外の影響も考えられるため、蓄積していくという結論になった。

今回の事例について、緊急調査等が必要な事例はなかった。

(2) 報告：東京都医師会及び東京都薬剤師会への協力依頼について（令和2年度第1回「健康食品」による健康被害事例専門委員会終了後の資料送付）

次の事項について報告した。

- ・今年度第1回当専門委員会での検討結果、情報提供することとした2事例（皮膚障害、水様性下痢・低血圧）について、都医師会、都薬剤師会に対して協力を依頼したことを報告した旨。

(3) 報告：収集事例の集計結果について、

平成18年7月1日から令和2年11月30日までに収集した事例の集計結果について報告した。

なお、製品と症状との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものであるが、確定された事例はなかった。

ア 収集事例の内訳

医師会・薬剤師会等の別	製品数	患者数（人）
医師会	251	178
薬剤師会	144	133
東京都消費生活総合センター※	3	3
合計	398	314

※東京都消費生活総合センターについては、分析・評価の依頼のあった事例について、平成30年7月から「健康食品」による健康被害事例専門委員会の分析・評価の対象としている。

イ 利用目的の年代別分布（複数報告あり）

	ダイエット・美容	便秘	婦人科疾患改善	強精	血流改善	栄養補給	腰痛・関節痛	血圧改善	血糖値改善	肝機能改善	美肌	免疫賦活	健康維持・健康増進	病気の改善	病気の予防	美容	バストアップ	筋肉増強	不明・記載なし	年代別患者数
10代	2				1	2													2	7
20代	19		1	1		2					2		1	4		4	3		18	55
30代	15				1	4					5		4	1		7			17	54
40代	11	1	2	1		2	2	1	1		1		6	3	1	5			17	54
50代	8	1				19	13		1	1	2	2	8	2	2	3			33	95
60代	7	3	1	1	3	10	16	4			1	2	15	7	1	1		2	28	102
70代	2	3	1		3	12	23	3	2	1			11	5	1			1	37	105
80代	3	3			2	8	11		3	1	1		3	2		3			22	62
90代							1							1					2	4
不明・記載なし	2	1				4			1						1	1			6	16
合計件数	69	12	5	3	10	63	66	8	8	3	12	4	48	25	6	24	3	3	182	554

- ・ダイエット・美容は 20～40 代、栄養補給は 50 代から 70 代、腰痛・関節痛は 50 代から 80 代、健康維持・健康増進は 60 代から 70 代が多い。
- ・年齢別では、50 代から 70 代の利用が多い。

ウ 性別割合

性別	患者数(人)	構成比
女性	233	74%
男性	77	25%
記載なし	4	1%

- ・女性は男性の約 3 倍であった。

エ 医師の診察の有無

医師の診察の有無	患者数 (人)	構成比
有り	222	70.7%
無し	53	16.9%
不明・記載なし	39	12.4%
合計	314	100.0%

オ 基礎疾患の有無

基礎疾患の有無	患者数（人）	構成比
有り	185	58.9%
無し	88	28.0%
不明・記載なし	41	13.1%
合計	314	100.0%

・収集した情報のうち、基礎疾患のある事例は約6割であった。

カ 基礎疾患に対する治療薬の有無

基礎疾患に対する治療薬の有無	患者数（人）	構成比
有り	136	73.5%
無し	14	7.6%
記載なし	35	18.9%
合計	185	100.0%

(N=基礎疾患のある185人)

- ・基礎疾患のある人の約7割が、治療薬と健康食品とを併用していた。
- ・これは収集した情報の約4割を占めていた。

キ 症状・異常所見等（複数報告あり）

症状・異常所見等	報告数（件）
皮膚症状（発疹・発赤・掻痒）	109
胃痛・胃部不快感・吐気	53
肝機能障害、肝機能検査値異常	40
血液検査異常(肝機能以外)	37
下痢・軟便	23
便秘	7
めまい・ふらつき	6
倦怠感	6
出血、出血傾向	6
頭痛	6
下腹部痛、子宮出血	2
その他	44
合計	339

- ・症状は「皮膚症状」が最も多く、次いで「胃痛・胃部不快感・吐気」「肝機能障害・肝機能検査値異常」であった。
- ・なお、症状・異常所見と製品との因果関係については、疑わしいものとして情報提供を受けたものであるが、確定された事例はなかった。

東京都食品安全情報評価委員会
「健康食品」による健康被害事例専門委員会 委員名簿
(五十音順・敬称略)

令和2年4月現在

No.	氏名	所属
1	○ 梅垣 敬三	昭和女子大学 食安全マネジメント学科 教授
2	小林 弘幸	公益社団法人東京都医師会 理事
3	千葉 剛	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 国立健康・栄養研究所 食品保健機能研究部 部長
4	松本 雄介	公益社団法人東京都薬剤師会 理事
5	水谷 太郎	地方独立行政法人茨城県西部医療機構 理事長
6	山口 正雄	帝京大学ちば総合医療センター 第三内科（呼吸器）教授
7	山口 隆司	一般財団法人食品産業センター 海外室次長

(○) 座長